

若手・女性研究者奨励金にご支援を賜りました
寄付企業法人や寄付者の皆様へ



受賞者から御礼の言葉

2020年度（第3回）若手研究者奨励金 受賞者

竹岩 俊彦

埼玉医科大学 医学部 ポスト・ドクター

〔研究課題名〕

卵巣がん特異的非コードRNAの新規同定及び機能解明と臨床応用

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究により、卵巣がんの進行に重要な役割を担うと考えられる新しいRNAを発見し、卵巣がんに対する新しい診断マーカーおよび治療のターゲットとして有用である可能性を示すことができた。

本研究に際し、貴重な奨励金の助成をいただけたことに感謝するとともに、この研究成果が、卵巣がんや他のがんにおける新しい診断・治療に早く臨床応用できるように、引き続き臨床に近いがんモデルを用いて、RNAの役割を詳細に検討していきたいと考えている。

菅原 健之

北里大学 医学部 解剖学教室 助教

〔研究課題名〕

海馬神経細胞のスピンが形成期から成熟期へシフトする分子機構

寄付者の皆様へ〔御礼〕

今回頂いたご支援により、本研究で用いたリン酸化特異的抗体を作成でき、これがなければ得られなかった新規性の高いデータを取得することが出来ました。そして、これらのデータをもとに、さらに研究を進めることが可能となりました。ここに感謝いたします。

本研究のような基礎的な研究は、すぐに医療や創薬に繋がるものではなく、その学術的意義が理解されにくいかもしれません。しかしながら、脳高次機能などの生命活動を可能にするための正常なメカニズムがわかってはじめて、疾患の原因となる異常がどこに起きているのかを理解できるのだと考えています。

今後とも臨床研究と共に、それに繋がる可能性を秘めた基礎研究に対するご支援もどうぞよろしくお願い申し上げます。

花房 慶

順天堂大学 大学院医学研究科 環境医学研究所 ポスト・ドクター

〔研究課題名〕

病原性抗酸菌による抗原提示抑制機構の解明

－スフィンゴ糖脂質代謝網に着目した抗原提示抑制メカニズム－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は本研究課題に対して、若手研究者奨励金を授与していただき、誠にありがとうございました。

ご理解、ご期待を頂きましたと共に、奨励金を賜りましたことに心より感謝申し上げます。

将来的に有効性が想定される多剤耐性を獲得させないような病原性抗酸菌感染症の治療や予防に役立つ成果を上げて社会への還元が一日でも早くできますよう研究を邁進していきたいと存じます。

小島 拓之

昭和薬科大学 薬学部 特任助教

〔研究課題名〕

TRPML1に結合するリン脂質擬態分子IRBITの機能解析

寄付者の皆様へ〔御礼〕

パーキンソン病やアルツハイマー病といった神経変性疾患では、異常タンパク質の蓄積が認められ、患者由来の組織ではタンパク質の分解を担っているリソソームの機能が低下している。このような神経変性疾患は、根本的な治療がなく、医薬品の貢献度や患者の治療満足度が低い。現在、新たな治療戦略として、リソソームの分解機能を活性化して、病気の原因となる異常タンパク質の分解を促進する方法が試みられている。

私は本奨励金の支援のもと、IRBITがリソソームの機能を抑制していることを明らかにした。このことから、IRBITは神経変性疾患治療薬の新たな創薬ターゲットになりうる。今後は、IRBITの機能を阻害する薬剤をスクリーニングし、神経変性疾患治療薬の開発につなげていきたい。

本研究を遂行するにあたり、ご支援を頂きました日本私立学校振興・共済事業団の関係者各位ならびにご寄付を頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。

今後とも、ご支援賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

濱田 圭佑

東京薬科大学 薬学部 病態生化学教室 助教

〔研究課題名〕

筋細胞に選択的かつ高親和性に結合するDNAアプタマーの創製

寄付者の皆様へ〔御礼〕

今回、本研究を遂行するにあたり研究奨励金をご支援いただきました日本私立学校振興・共済事業団および関係者各位に心より感謝申し上げます。

今回ご支援いただきました研究奨励金により、目的としておりました新規分子を見出すことが出来ました。

挑戦的かつ先行研究が乏しいにも関わらず、本研究の可能性をご理解いただきご支援いただきまして、大変感謝しております。

これからも本分子を基にした創薬研究に邁進していきたいと考えております。

今後も継続的なご理解・ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願いいたします。

武部 匡也

立正大学 心理学部 助教

〔研究課題名〕

思春期・青年期の摂食障害発症リスクの共通性と個別性
—発達段階で一貫した予防モデルの構築—

寄付者の皆様へ〔御礼〕

寄付していただいたみなさま、誠にありがとうございました。

若手・女性研究者奨励金を受け取ることができ、研究者としてまた一步成長した実感があります。

具体的には、どのような状況の中でも研究活動をしていく姿勢について考えることができました。新型コロナウイルス感染症の影響によって、これまでの研究手法（紙による質問紙調査の実施や対面でのプログラムの提供など）が採用できなくなる事態に陥りました。特に私が専門とする心理学は、人間を対象とする研究分野であり、少なからず打撃を受けました。

このような状況の中で若手・女性研究者奨励金を受けていることで、研究手法の選択肢が広がりました。調査会社を利用したWEB調査が代表的な例です。個人でWEB調査の委託費を賄うのは困難で、研究費が必要となります。今まではWEB調査という選択肢は私の中にはなかったのですが、この機会に新たな手法にチャレンジすることができ、研究者としての幅が広がったように感じます。

このような機会をいただけたことに対して、寄付者のみなさまに感謝申し上げたいと思います。

WEB調査の他にも、テレビ会議システムを利用したプログラムの提供など、以前とは異なった手法で研究をしていく姿勢が育まれ、状況に対する柔軟性や対応力が身につきました。今回の成長を糧にして、今後も社会問題の解決に貢献できる研究者を目指していきたいと思います。

平田 恵介

東京家政大学 健康科学部 期限付助教

〔研究課題名〕

脳卒中片麻痺者の歩行モードに応じた複数筋活動の遷移能力の解明
－歩行モード別の筋間コヒーレンス解析と歩行能力の関連性－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本邦において脳卒中は罹患者100万人を超え、生活習慣病と関連した国民病と言える。さらに、要介護状態になる要因第一位となるほど重篤な後遺症片麻痺を引き起こすために、片麻痺者の歩行自立度の維持、向上と介助者の負担軽減は、超高齢社会に突入した我が国において社会的解決課題に他ならない。

学術領域に課せられた課題は、神経学的理論背景に基づく介入“ニューロリハビリテーション”の確立である。

今回の助成をきっかけに今後も当該分野研究に従事することで、国内の脳卒中者の方、医療、介護に貢献する研究者人材になれるよう精進していく。

谷岡 卓

愛知学院大学 薬学部 助教

〔研究課題名〕

安定な有機ラジカル色素の合成と光レドックス触媒への応用

寄付者の皆様へ〔御礼〕

今回、採択していただいたおかげで滞りなく研究を進めることができ、ご支援をいただいた皆様には心から感謝申し上げます。

科学における基礎研究は、すぐに社会還元することは難しいですが、10年後20年後の社会をよりよいものにするためには重要であると考えています。一方で、本研究のような基礎的な研究が続けられるのは、多くの皆様に支えていただいているおかげですので、いつも感謝の気持ちを忘れず、社会的な責任感をもって今後も研究に邁進したいと思います。

吉川 直人

京都女子大学 家政学部 助教

〔研究課題名〕

デスカフェの実態と効果に関する研究

－多死社会における死を語るコミュニティの役割－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は、貴重な奨励金をいただき、誠にありがとうございました。

皆様のご支援により、深まる多死社会において必要性を増す、死の対話の場の意義、価値、効果とさらなる可能性の拡大、ネットワーク化の糸口を図るという目的を果たすことができました。

本研究の遂行にあたり、ご支援いただいた皆様に、深く感謝の意を表します。

増田 明

同志社大学 生命医科学部 研究開発推進機構 助教

〔研究課題名〕

抑制性細胞を標的とした脳刺激型人工視覚の生理学的評価
－光を使った新たな視覚治療法の可能性－



寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究助成により光遺伝学的なアプローチの脳刺激型人工視覚としての初期段階における有効性を確認することができました。誠に感謝いたします。

今後、より実際に近い形での実証実験、基礎研究を進めていくことで視覚治療法の確立に近づけていきたいと思っています。

三重野 雄太郎

佛教大学 社会学部 公共政策学科 講師

〔研究課題名〕

代理出産をめぐる法的・倫理的問題

—ドイツ・オーストリア・スイスの比較研究—

寄付者の皆様へ〔御礼〕

2020年度、2021年度と2年連続でこの奨励金を頂きまして、心より感謝しております。

本当にありがとうございました。

投資していただいているということを忘れずに、今後も研究に励みたく思います。

大沼 卓也

近畿大学 産業理工学部 特任講師

〔研究課題名〕

トップダウン処理に基づく人間的な食行動の研究
—音楽の存在による食事体験への影響の検討—

寄付者の皆様へ〔御礼〕

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、外食よりも自宅で食事をするが増えたことと思います。たまにはお店の味を自宅でも味わいたいと思い、飲食店の料理をテイクアウトしたり、宅配してもらったりしたとしても、何となく物足りない、お店で食べるのとは何かが違うと感じたことはないでしょうか。もちろん、食べている料理は同じはずですが、なぜ違って感じるかということ、その料理を食べる環境が違うことに原因があるかもしれません。本研究でも示されたように、食器の重さが変わるだけでも味わいの感じ方は変わります。そのため、食器を含む食事の環境に注意を向け、たとえば料理をテイクアウトの紙皿から少し立派な食器に盛り付け直すなど、ちょっとした手間を加えるだけでも、自宅にいながらにしてお店のときのように食事をおいしく楽しむことができるようになると考えられます。

一般的に「食」と「心理学」は関係がないと思われがちです。しかし、食べることは生きる喜びや幸福と密接に結びついた、きわめて人間的な営みであります。そのため、本研究のように人間の心という視点から食の実態を明らかにせんとする研究を社会的にご支援いただけることで、私たち研究者は人類の食と健康、そして幸福に少しでも貢献することができると信じています。

改めまして、今回ご支援くださいました皆様に心より御礼申し上げます。

下 和弘

神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 助教

〔研究課題名〕

アイトラッキングを用いた姿勢・動作分析の解析
—臨床推論を可視化する—

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究の意義をご理解いただき、ご支援いただきました日本私立学校振興・共済事業団およびご寄付いただきました関係者の皆様に御礼申し上げます。

理学療法士を含めた臨床医学に携わる者のなかには優れた診断・治療技術を有する者がいる一方で、その優れた技術を他者への確に伝達・教育する方法・システムは確立されていません。近年の科学技術の発展を応用し、このような優れた臨床能力を抽出したり、共有したりする取り組みを続けることで、どこの医療機関であっても高い水準で理学療法やリハビリテーションを受けられる世の中になることを目指し、鋭意努力を続けて参ります。

武田 知也

福山大学 人間文化学部 心理学科 講師

〔研究課題名〕

メタ認知が抑うつ気分の改善をもたらすメカニズムの検討
— 否定的・肯定的自動思考のバランスに着目して —

寄付者の皆様へ〔御礼〕

今回の研究では、メタ認知が抑うつ気分の改善をもたらすメカニズムを検証しました。本研究の結果から、メタ認知を向上するだけでは、否定的自動思考に着目する傾向を高め、抑うつ気分の改善には逆効果であることがわかりました。この結果を受け、メタ認知の向上により否定的自動思考への気づきが高まった後に、否定的自動思考への効果的な対処方略を身につける必要があることが明らかとなりました。D-MCTは、メタ認知を向上し、認知の偏りへの気づきを促した後に認知の偏りへの対処方略を学んでいきます。今回の研究を通して、D-MCTを抑うつ予防プログラムとして実施することへの一つの根拠を得たと考えています。

今回の研究をご支援いただいたことに感謝申し上げます。今後は大学生の抑うつ予防プログラムとしてD-MCTの効果検証を行い、その成果を社会に発信できるように邁進していきたいと思います。

片岡 裕樹

日本薬科大学 薬学部 助教

〔研究課題名〕

4´位に置換基を導入したチオリボヌクレオシドの合成研究

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究課題にご支援いただきましてありがとうございました。

2020年度若手研究者奨励金は筆者が初めて獲得した外部競争的資金です。当研究資金を得たことにより、限られた研究資金を何に分配し、どのように研究を進めると目標を達成できるか、また効率よく進行できるかを強く意識するようになりました。研究だけであればそれほど難しいことではないと思いますが、研究以外の業務の進行も考慮しながら、研究資金のこともしっかり考えるということができたので、大学教員の研究者としてステップアップができたと思います。

抗HCV薬ハーボニーが2015年に登場してから、C型肝炎は治せる疾患として認知されるようになってきました。しかしながらマヴィレットのような有効性が高い新薬が開発されてもなお、比較的長い治療期間を要する、薬価が高く治療費が高額になる、治療が奏功せず再燃した患者の治療が困難であるといった問題を抱えており、HCVや他のウイルスに対する備えはいくらあっても多すぎることはありません。今後本研究で到達目標とした化合物を合成し、それらが抗HCV活性を示す化合物として有用であることを示せば、人類のHCV感染克服における一助となりえます。HCVに有効性を示さなかったとしても、ヌクレオシドはすべての生物やウイルスの遺伝情報を構成している都合上、他のウイルスや悪性腫瘍に対して有効性を示すことも考えられます。そのため、本研究が達成されれば何らかの形で医薬品化学界に貢献できます。

最後になりましたが、本研究課題をご支援いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

金子 智昭

埼玉純真短期大学 こども学科 助教

〔研究課題名〕

保育者のキャリア発達を支援するワーク・エンゲイジメントの研究

寄付者の皆様へ〔御礼〕

はじめに、本研究にご協力いただきました保育者、並びに日本私立学校振興・共済事業団の関係者の皆様方に心より感謝の意を申し上げます。

JD-Rモデルは、ワーク・エンゲイジメントを規定する先行要因が2つ想定されている（仕事資源、個人資源）。その点、主に仕事資源の構築は各園で従事する職務者の役割、そして個人資源の構築は養成校の教員が学生を現場に輩出する前の指導上の役割として位置づけることができる。したがって本研究で検証されたモデルは、保育者を志す学生から現職者までの長期的なキャリア発達を支援するうえで有用性が高いと言える。

また幼児教育分野における動機づけ研究は、保育者効力感を除いて極めて少ない現状に鑑みると、高い学術的価値を有すると考えられる。一方、当初の仮説に反して、仕事要求度の調整効果はワーク・エンゲイジメントから組織コミットメントに向けたパスで確認された。

今後、サンプル数を増やし、また他の変数との関連性を考慮しながら検証することで、保育者独自のJD-Rモデルを開発していくことが求められる。

樋渡 由貴

九州女子大学 人間科学部 助教

〔研究課題名〕

ヤングケアラーのケア役割経験に対する認知の両価性に関する研究

寄付者の皆様へ〔御礼〕

寄付者の皆様、調査に協力して下さった皆様、お力添えをいただき誠にありがとうございました。

研究を遂行する上で必要な環境が整えられたこと、これから取り組むべき研究の最初のステップを形にできたこと、とても感謝しております。

今後も自身の研究を重ねていく中で、多職種他領域の方々よりご意見をいただきながら精進し、障害を抱える方、そしてその家族の方々への理解と支援の一助となれるよう努めてまいります。